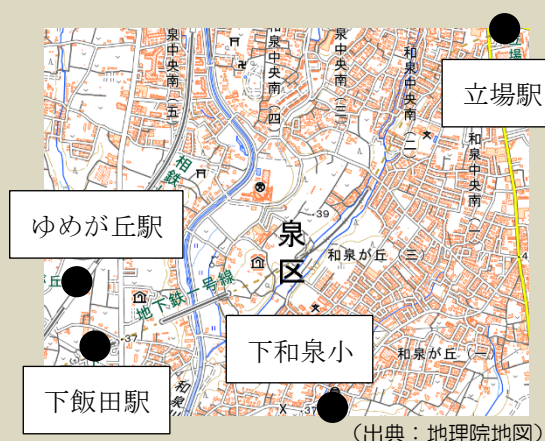


令和4年度 横浜市立下和泉小学校 出前授業 実施報告

はじめに

- 公共交通などを適度に利用する生活への転換を促す「モビリティマネジメント」の一環として、様々な移動手段を目的や状況に応じてかしく使い分ける視点を学ぶ授業を下和泉小学校で実施しました。
- 下和泉小学校では、総合学習の時間に「環境」について学んでおり、地球温暖化やSDGsについて考える授業を行っています。今回の出前授業では、地球温暖化の話や横浜市でのCO2排出量の話、また基礎知識として、バスなどの公共交通の現状や、移動手段を選択する上で考えてほしいことなどについて伝えました。
- 学校の周辺は駅から離れた住宅街であり、マイカー利用が多くなっています。授業を通して、バスを身近に感じてもらい、利用につなげてもらうことがねらいです。

- 【日時】 令和4年10月20日（木）3・4校時
- 【対象】 横浜市立下和泉小学校
5年生1・2組（66名）
- 【内容】 ①座学
「人にも地球にも優しい「かしい移動」を考える」
②ワーキング



学校へのアクセス
横浜市営地下鉄ブルーライン 立場駅から
神奈中バスに乗り「原田」バス停下車5分

1 出前講座の全体概要

- 授業の内容・資料は、事前に先生に相談しながら決定しました。
- 当日の授業は、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教室での座学の実施となりました。通常はグループワーキングを行いますが、今回は個人ワーキングとしています。

■ 授業の様子



2 授業の内容

- 授業の冒頭で SDGs について触れ、公共交通をかしこく使うことは「11.住み続けられるまちづくりを」と「13.気候変動に具体的な対策を」に関連するということを伝えました。
- 温室効果ガスの原因でもあるCO2が日頃どのような場面で排出されるか、またクルマがもたらす環境への影響や、バスの利用が減っている現状などを説明しました。
- 児童たちは、買い物や習い事での移動にクルマ（送迎含む）や自転車を利用することが多いようですが、中にはバスを利用している方もいました。
- 後半の個人ワーキングでは、それぞれの移動手段ごとにかかる時間やお金、CO2 排出量を計算してもらいました。
- 移動手段を選ぶときは「環境」「お金」「便利さ」など様々な視点から見るのが大切であり、「行き先や状況に応じて、かしこい移動を考える」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■ 座学に用いたパワーポイント(一部)

ちょっと質問

ヒト1人を、1km運ぶとき、**クルマ**は、**バス**の何倍、二酸化炭素を出すでしょうか？

A ほとんど一緒

だんだん利用が減ってきたバス

市内を走るバスの1日乗車人員

22年前で約11%減っています

かしこい移動を考えてみよう

(1)~(3)の場合、どんな移動がよいか考えてみましょう

(1) 友達と2人で、本郷台駅へケーキを買いに行くには？
(2) 高い者の方と2人で、戸塚駅へ家電製品を買いに行くには？
(3) 車いすの人と2人で、みなとみらいへ本を買いに行くには？

28

■ 個人ワーキング

おでかけに電車を使ったときと、クルマを使ったときでは、二酸化炭素の量や、移動の時間や、どのくらい変わるだろうか？ みなとみらいの「ランドマークタワー」に行くときのことを考えて、下の□を、かけ算や足し算しながら、うめてみよう。

(ア) 電車のみで行くとき

大塚駅

電車 1人1回乗車(片道)150円
距離 20km(乗車から片道乗車15分)
二酸化炭素排出量 19kg×20km×2027年 = □ プラム

徒歩

電車 1回乗車(片道)150円
距離 10km(乗車から徒歩乗車30分)
二酸化炭素排出量 2kg×20km×2027年 = □ プラム

ランドマークタワー

電車のみで行くとき、本館定員として
距離 20km 月々□円
時間 □分
二酸化炭素排出量 □プラム

(イ) 電車と徒歩で行くとき

電車 1人1回乗車(片道)150円
距離 20km(乗車から片道乗車15分)
二酸化炭素排出量 19kg×20km×2027年 = □ プラム

徒歩

電車 1回乗車(片道)150円
距離 10km(乗車から徒歩乗車30分)
二酸化炭素排出量 2kg×20km×2027年 = □ プラム

ランドマークタワー

電車と徒歩で行くとき、本館定員として
距離 20km 月々□円
時間 □分
二酸化炭素排出量 □プラム

(ウ) クルマのみで行くとき

大塚駅

クルマ 1人1回乗車(片道)1500円
距離 20km(乗車から片道乗車15分)
二酸化炭素排出量 40kg

ランドマークタワー

クルマのみで行くとき、本館定員として
距離 20km 月々□円
時間 □分
二酸化炭素排出量 □プラム

おわりに

- 児童からは「バスの利用者が減っていることを知らなかった」などの声がありました。クイズも交えた授業を行いました、とても熱心に授業を聞いていただきました。
- 「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと」を日頃から心掛け、家族やお友達などと少しずつ実践してほしいと思います。